④

令和８年度剣道中央講習会
剣道未来プロジェクト（KFP）報告

－取組み状況と今後の展望－

令和8年４月５日
共同代表　　奈良　隆

1

＜本日の項目＞

Ⅰ　KFP設置の背景・組織特性・目的

Ⅱ　KFP三大事業の内容

Ⅲ　各事業の取り組み状況

Ⅳ　KFP事業実施上の課題

2

Ⅰ　KFP設置の背景・組織特性・目的

3

KFP設置の背景

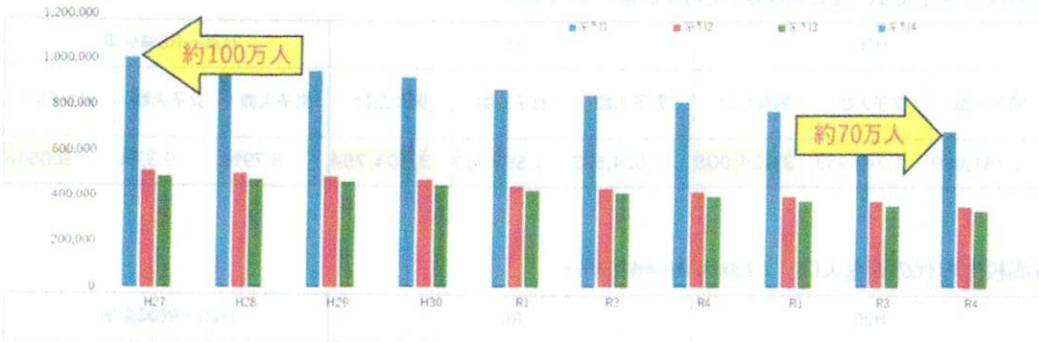
日本国内の人口減少傾向（全体人口・剣道人口）

4

①人口減少問題関係資料

（厚生労働省資料より）

日本国内の出生者数の推移（H27～R4）



※出生者数はこの10年間で約30%減少した。

※Ｒ21年（2039年）に68万人という予測だったが、すでにＲ4年（2024年）に到達。予測より約15年早いペースで進行している。

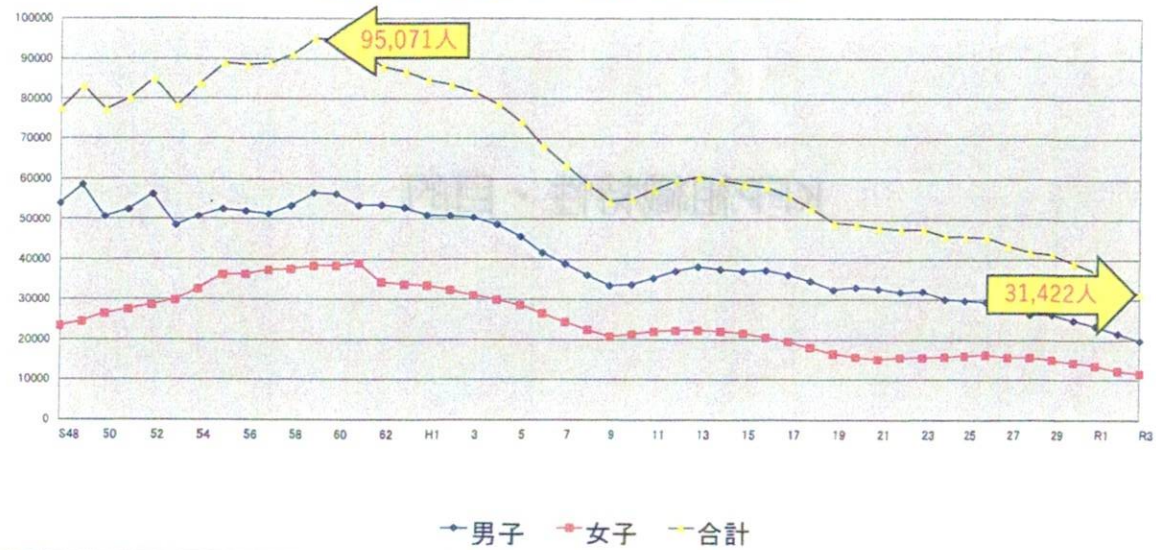
6

5

②人口減少問題関係資料

（全国高体連統計より）

全国高校生剣道人口の推移（S48年からR3年）



4

③人口減少問題関係資料（全国高体連統計より）

●高校生全生徒数（全日制課程+定時制課程）※文科省調べ

H26			R6			H26～R6減少率		
男子人数	女子人数	男女合計	男子人数	女子人数	男女合計	男子人数	女子人数	男女合計
1,781,069	1,742,939	**3,524,008**	1,624,535	1,580,219	**3,204,754**	8.79%	9.33%	**9.06%**

●高校生年代の剣道人口 ※全国高体連剣道専門部統計

H26			R6			H26～R6減少率		
男子人数	女子人数	男女合計	男子人数	女子人数	男女合計	男子人数	女子人数	男女合計
29,420	16,196	**45,616**	19,694	12,026	**31,720**	33.06%	25.75%	**30.46%**

7

KFP組織特性・目的

8

Ⅰ　KFP設置の背景・組織特性など

<剣道人口減少という構造課題>

- 継続的な人口減少
- 若年層の競合スポーツ増加
- 地域格差の拡大
- 指導者の高齢化

※従来型を拡大した発想による組織作りが必要

9

KFPの組織としての特性

「人口減少問題に特化した対応組織の必要性」

（1）目　　的　→　剣道人口減少に歯止めをかけ、幼少年をはじめ各年代の剣道人口増加への転換
（2）位置づけ　→　具体的な改善策の立案及びその実施内容等について理事会に対し
進捗状況等を報告すると同時に理事会からの新たな指示・要請に対応
（3）メンバー構成
①全剣連内・外の一組織や一委員会に限定することなく**柔軟かつ横断的な組織**
②必要に応じて**剣道界以外からも有識者として外部人材を積極的に活用**

～人口減少問題に特化したPJTとしてKFPが組織された～

10

KFPが目指すところ

- 人口減少傾向に歯止めをかける
- 増加への転換を図る
- 剣道文化を世界に広げ、後世に繋ぐ

11

Ⅱ　KFP 三事業の内容

12

1　調査関係事業

2　広報関係事業

3　イベント等への「後援」/「応援」事業

13

1　調査関係事業

◎各種意識調査を実施し、データ集約・分析・評価により新たな具体的施策の構築・実施に繋げる。

2　広報関係事業

◎紙媒体・電子媒体を活用した外部への積極的な広報を展開し、人口増に繋げる。

3　イベント等への「後援」/「応援」事業

◎剣道人口増への貢献が大いに期待される外部関連事業に対し、後援等を展開する。

14

Ⅲ　各事業の取り組み状況

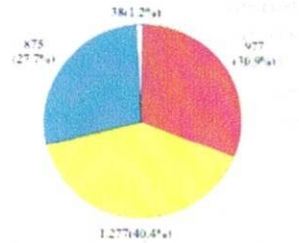
15

調査関係事業

①小・中・高校生対象の意識調査結果より

16

「小・中・高校生対象の意識調査概況」

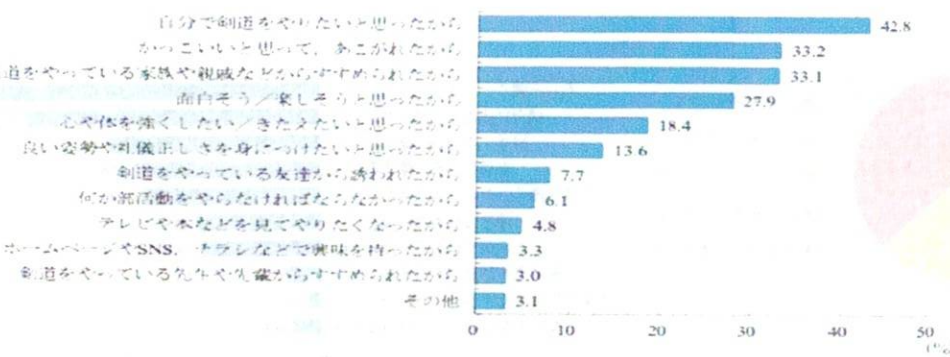


	男子	女子	答えない	性別無回答	合計
小学生	700	270	7	0	977
中学生	719	543	9	6	1,277
高校生	476	385	9	5	875
学年無回答	13	1	0	17	31
合計	1,908	1,199	25	28	3,160

※居住地、校種（学年）、性別とも、比較的バランスのとれた回答状況。

17

「剣道始めた理由」

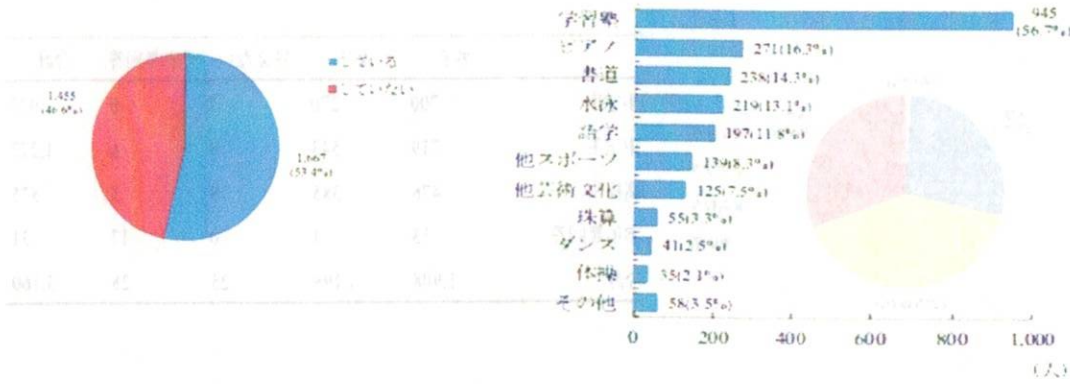


※自分の意思で剣道を始めた者が４割強。

※家族・親戚等からの勧めで剣道を始めた者が約1/3を占める。
家族に剣道経験者がいる者は回答者全体の約2/3）。

18

「剣道以外の習い事の実施状況」

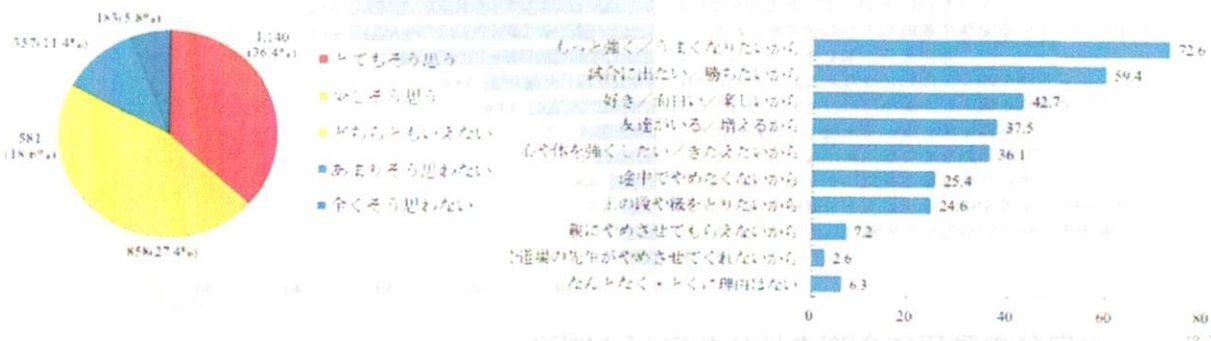


※５割強が剣道以外の習いごとにも取り組んでいる。

※剣道以外の習いごとの内訳は、学習塾が圧倒的に多く（５割強）。これに次いでピアノや書道、水泳、語学などを学ぶ者が比較的多かった（各１割台）。

19

「剣道継続の意思と理由」



※剣道を続ける理由（モチベーション）は，技術の向上と試合に勝つことがメイン。友人関係も重要な要素。

※約2/3が剣道を続ける意思をもつ。続ける意思のない者は２割弱。

20

調査関係事業

②今年度実施予定の調査

21

1 「指導者を対象とした調査」

◎小・中・高校生対象の調査結果との対比/検討による新たな打ち手の構築

2「好事例ヒアリングの実施」（検討中）

◎好事例の集約/公開による剣道人口増加策の拡散

―好事例ヒアリングの概況―

- **各団体（道場単位や連盟組織など）で実施している取り組み内容について聞き取り調査を実施する**
  ➡ 詳細は課題整理を含め現在検討中

- **議論の内容**
  ⇒方法、対象数、期間などの詳細は今後の議論課題
  ⇒令和８年度展開を目指し、内容をブラッシュアップ
  ⇒令和８年度実施予定の「指導者調査」と合わせて実施することで、より効果的な2年目のアクションとして期待

22

広報関係事業

①シネアド（映画館CM）の展開

23

シネアドの実施

劇場版「鬼滅の刃」の上映前に15秒の映画館用CM（シネアド）を放映した。

・シネアド上映期間：2025年7月18日～7月31日

・対象映画館：以下の13館（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）

- 109シネマズ二子玉川
- TOHOシネマズ錦糸町
- TOHOシネマズ西新井
- ユナイテッド・シネマとしまえん
- TOHOシネマズららぽーと横浜
- 109シネマズ川崎
- TOHOシネマズ海老名
- TOHOシネマズ市川コルトンプラザ
- ユナイテッド・シネマテラスモール松戸
- TOHOシネマズ八千代緑が丘
- ユナイテッド・シネマわかば
- ローソン・ユナイテッドシネマ入間
- TOHOシネマズららぽーと富士見

→ 理論上、50万人以上が視聴

24

25

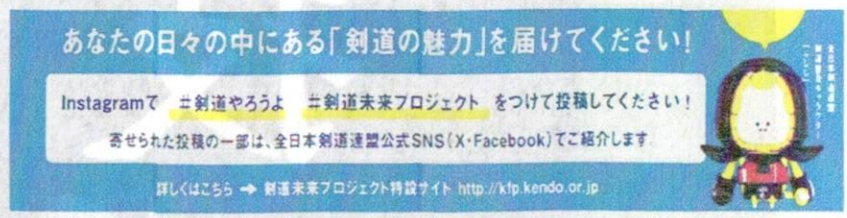
広報関係事業

②ハッシュタグキャンペーン（企画）

26

ハッシュタグキャンペーン

◎SNS上で、剣道の魅力を伝える写真や文章の投稿を促すキャンペーンをまもなく実施予定



27

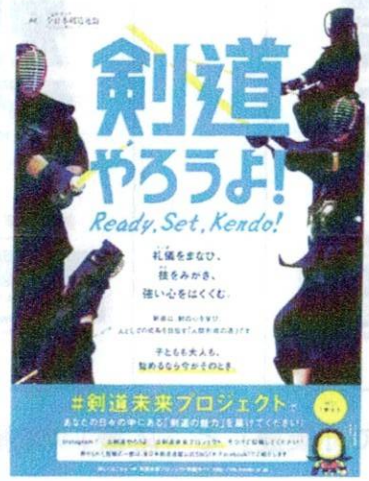
広報関係事業

③特設サイトの立ち上げ

28

特設サイトの立ち上げ

◎今後の剣道未来プロジェクト（KFP）の紹介やこれまでの活動をまとめたホームページを作成中



29

後援/応援関係事業

令和7年度に実施した後援/応援事業

30

剣道未来プロジェクトが外部プロジェクトをサポートする制度を発足

内容に応じて「後援」と「応援」の2種類で認定

31

後援事業

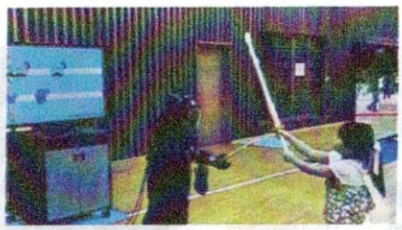
SMILE剣道祭

2025年8月11日（月・祝）
10:00-18:00 横浜武道館 武道場で開催。

剣道の未経験者から、剣道好きのちびっ子まで
幅広い層が楽しめる剣道イベント。
午前中は剣道ゲームなどの体験、
午後は剣道好き著名タレントの試合や、稽古会を開催。

- 普及委員会と剣道未来プロジェクトが後援
- 全剣連のホームページに情報記載
- SMILE剣道祭のホームページにも後援の旨記載
- 後援を示すボードも当日設置
- 当日開場に掲示するポスターも提供済
- ぶししのカットアウトも貸し出し

32



1部　剣道ゲームを楽しむ子ども

1部　新聞斬りに夢中の子ども

1部　スタンプラリーを達成した子どもたち

3部　合同稽古会による集合写真

2部　タレント剣士、実業団剣士、海外剣士による集合写真

33

応援事業

古田花恋さんの万博展示

2025年7月19日-7月20日に実施済。
万博内メッセにて展示。

バーチャル世界で自分の分身と稽古をするシステムの展示

- 送付した「応援ボード」がしっかり掲示されていた
- 剣道に関心のない人への認知につながったと言える
- 古田さんはカナダで同研究の学会発表も剣道着で実施

34

35

36

後援事業 **剣道まつり　映画「てっぺんの剣」**

日にち：12月13日(土)
場　所：千葉県 イオンシネマ幕張新都心

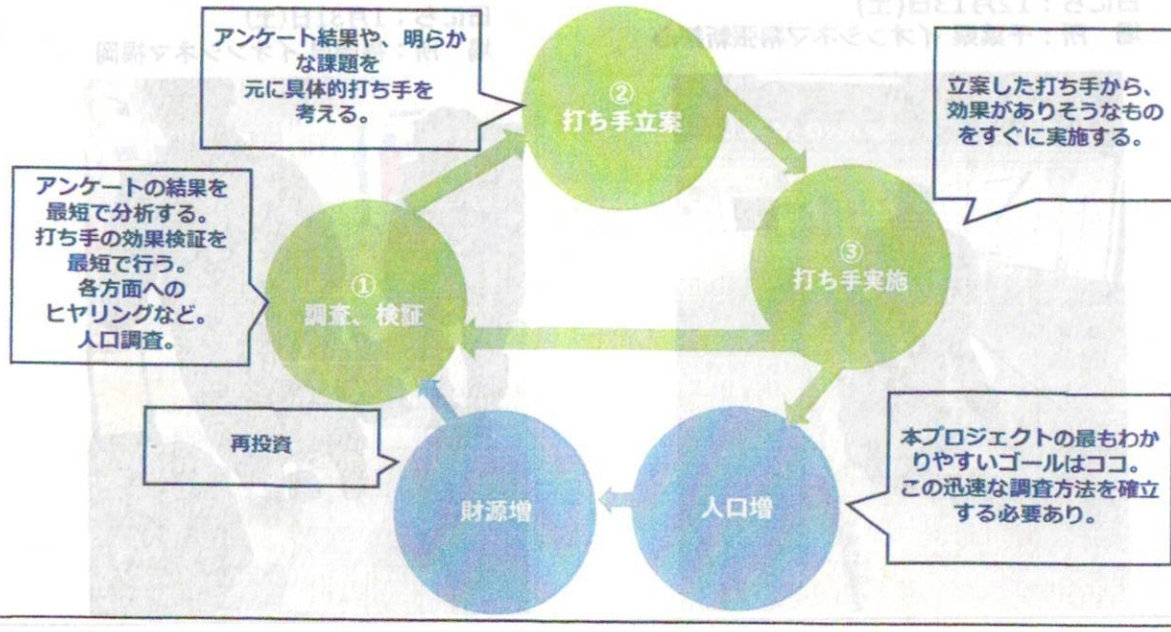
日にち：1月31日(土)
場　所：福岡県 イオンシネマ福岡

37

Ⅳ　KFP事業実施上の課題

38

KFP事業展開の全体イメージ



39

<構造上の課題>

1　特効薬的内容はない

2　施策の検証には時間が必要

3　事業内容が固定化しづらい

4　柔軟性と予算制度の整合性

40

<まとめに変えて>

KFPは・・・

- 試行錯誤の段階
- しかし、必要不可欠な挑戦
- 「全剣連」そして「剣道界全体」の将来に直結

41

ありがとうございました。

42

<つぎのページにおもむき>

・・・おりなさい

●ぜんぜん意味がわからない

●いったい、なんのまねだ

●今回に限り、つごう1回免許停止

<もとのページにおもどりください。>